

令和6年度介護福祉等に係る講習会

2024. 8. 28 Wed.

全国福祉高等学校長会主催「介護福祉等に係る講習会」8日目となりました。

【介護過程】

昨日に引き続きのご講義である。はじめに、学生たちが介護実習で感じた素直な違和感や疑問について紹介していただき、それを大切にする必要があることを教えていただいた。

また、学校で学んでいる介護過程の様式は現場で使っている様式とは異なるため、職員が介護過程の指導をするのが困難な場合もあるため、介護実習で使う介護過程の様式を現場でも活用できるものに改訂しているということであった。

介護過程は生徒にとっては難しい部分もあるが、身近な内容で考察し、イメージを持つことで理解につながるため、吉岡先生の情報収集し、先生の旅行計画を立てるという演習を行った。受講生から吉岡先生に多くの質問が出され、複数人で話し合いながら取り組み、発表した。学校の授業でも、生徒の身近な教員を対象に、この事例のような演習を行い、相手のことを考え、喜んでもらうという思考を学ぶことが、介護過程の理解につながると教えていただいた。また、吉岡先生健康に関する事例も提示していただき、介護に近づけるための事例であると説明いただいた。

また、利用者の情報から、どのような支援をすることで、今より生活がよくなるかについて考察する演習を行った。授業では、生徒に発表してもらい、他の生徒の意見を聴き視野を広げるようにすること、答えに間違いはないというスタンスが必須であり、正解を伝えて視野を狭める必要はないことを教えていただいた。また、先生の経験に基づき、利用者によりよい人生を送っていただくために、プロが関わるのが介護であると説明いただいた。

ICFの考えに基づいた介護過程の展開について、事例から学ぶことができた。ICFの「活動」には、「できる活動」と「している活動」があり、生活支援では、「できる活動」を意識して行うことが必要であること、介護過程では、先入観を持たずに情報収集を行い、情報に対して「なぜ」を追究する視点が不可欠であることなどを具体的に教えていただいた。

本日の講義では、先生が現場で経験された、多くの事例により介護過程の展開プロセスをご指導いただいた。介護過程では、情報収集と分析、課題の明確化、優先順位など、生徒が戸惑うような内容が多いが、利用者を幸せにするために何ができるかを考えるとよいことを教えていただいた。

先生が昨日の講義で言われたように、生徒は、介護福祉士の資格取得だけでなく、人間力の高い介護福祉士を目指すことが必要であると再度認識できた。

